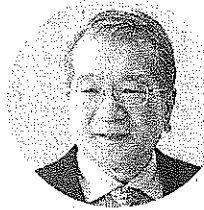


# 海外拠点 “現地化”への道

グローバル人材育成塾

秋里 寿正氏



秋里 寿正氏(あきさと・としまさ) 昭和21年6月4日生まれ、67歳。京都府出身。43年立命館大経営学部卒。51年シャープ入社後、海外事業本部へ配属。オーストラリア、イタリア現地法人の社長を歴任。13年海外人事部長などをを経て19年退社。20年グローバル人材育成塾を設立。グローバル人材の育成を支援。

## サービスの難易度は高い

経済のグローバル化が急速に進展する中、物流業界も海外事業の拡大がますます重要となっている。物流事業者にとって

も、海外ビジネスをマネジメントできるリーダータ材の育成が、急務なのではないだろうか。

私自身は電機メーカーの海外拠点で長年仕事をしてきたが、製造業と比べ、物流などサービス業の海外展開は難易度が高いと思われ、製造業はき、そこで、海外へ派遣世界をリードする生産力、技術力を中心に現地

で戦うことができるが、サービス業の競争力は、「現地人は仕事が途中で

人的資源に依存するところが多く、日本から派遣する社員の資質、能力、リーダータ材がより大切になるからだ。

## 現地社員の不満にも理由が

国内でさえマネジメント経験の浅い日本人が、国民性も価値観も異なる外国でリーダータ材を

育成の在り方について、計三回で述べたい。「現地人は仕事が途中で

## ①「話し手責任」自覚を

発揮することは、想像以上に難しいと覚悟すべ

「話し手責任」自覚を

## 文化の違い 解し対応せよ

海外拠点を立ち上げ発

「話し手責任」自覚を

ハイコンテキスト文化 (日本)	ローコンテキスト文化 (海外)
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ あうんの呼吸</li> <li>▶ 以心伝心</li> <li>▶ 行間を読む</li> <li>▶ 沈黙は金なり</li> <li>▶ 空気を読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表現する</li> <li>▶ 説明する</li> <li>▶ 討論する</li> <li>▶ 説得する</li> <li>▶ 交渉する</li> </ul>
聞き手責任のコミュニケーション	話し手責任のコミュニケーション

違うからだ。日本の職場では日本人

「話し手責任」自覚を

「話し手責任」自覚を

テクスト文化。相手は

「話し手責任」自覚を

「話し手責任」自覚を

「話し手責任」自覚を